

一般社団法人日本遺伝性腫瘍学会
2020年第2回 理事会 議事録

日 時：2020年10月17日（土） 13:00～16:40

場 所：web開催（Zoom）

出 席：理事長 石田 秀行

副理事長 青木 大輔 鈴木 眞一

理 事 赤木 究 石川 秀樹 大住 省三 川崎 優子 下平 秀樹 杉本 健樹

田中屋宏爾 田村智英子 平田 敬治 吉田 輝彦

監 事 武田 祐子 田村 和朗

第26回学術集会会長 玉木 康博

事務局 飛松由紀子 林 克美

・web上で全理事・監事が出席し、出席者の映像及び音声が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いに出来る状態であり、本理事会が成立することが確認され、石田理事長が議長となり議事を進めた。

・第26回学術集会 玉木会長が、同学術集会報告のため出席されることが報告された。

報告・審議事項：

1. 庶務報告

事務局から、庶務報告、新入会者リスト（2020年9月25日現在）について資料提示・説明があった。会費納入率は約70%、10月中に未納者に再請求する予定と報告された。

2. 第26回学術集会報告

1) 玉木・川崎両会長を代表して、玉木会長から以下の報告があった。

新型コロナウイルス感染症の影響で初のweb開催となったが、参加者数は800名を超え、予想の約2倍であった。事前配布資料にもとづき仮収支報告が行われ、黒字分は学会に寄付したい旨報告された。

2) 初のweb開催で、事前参加登録のみとしたが、当日（期間中）参加受付を今後の検討課題とした。

3) 学術集会余剰金の学会への寄付については、一定の方針を定める必要があるのではないかと意見があり、今後の検討課題とした。

4) 学術集会終了日をもって、両会長への感謝状を贈呈することとした。

3. 第27回学術集会（2021年）準備状況報告

1) 赤木会長から次のとおり報告され、承認された。

会 期：2021年6月18日（金）、19日（土）

テーマ：がんゲノム医療と遺伝医療 ～ボーダレス化のなかで躍動する～

開催方法：webとオンサイトのハイブリッド方式

会 場：埼玉会館（埼玉県さいたま市）

概 要：感染症対策・会場費の関係から、webに比重を置き、以下を予定している。①ポスターはオンラインのみ②HBOCとがんゲノム医療に重点③第26回で好評だった入門的講座（教育ビデオ）を発展させ、プログラムに多く取り入れる④各方面に単位取得の確認⑤年明けから演題募集開始

2) 理事長から、以下の点につき検討依頼があり、第27回学術集会本部、各担当委員会にて検討することとした。学術集会会長の独自性を担保することは言うまでもないが、学術集会の企画・開催をスムーズに行う助けとなるものとして、学術集会運営規定（仮称）を設けることを検討課題とした。

プログラム委員の設置

演題のCOI開示、倫理審査の有無

演題登録開始までに方針を示していただく。

学術集会時の委員会開催

学術集会前日に委員会は開催せず、Zoomなどを利用し、理事会・評議員会への提出事項は一ヶ月前までにまとめる。Face to faceでの開催の必要があれば、学術集会1日目、2日目の早朝や昼等に開催する。

理事長講演、会員報告会の開催

理事長講演を初日に行う（内容に1年間の活動報告は盛り込む）、会員報告会（30程度、例えば司会を理事長、報告者を総務委員長とし、会員に伝えたい重要な報告事項に絞る）を開催するなどして、学会の方向性、会員へのメッセージを伝える、会員からの質問に答える場・時間を設けることは必要である。

市民公開講座に関する一定の指針確定

学術集会開催のものと学術・教育委員会開催のものがあり、そのあり方についての指針を検討、確定する。

患者会の参加

将来的な参加支援規定の策定（交通費補助、一般セッションへの参加等）

赤木会長から、市民公開講座と患者会の参加に関して、まだ新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されることや、オンデマンドで長期視聴可能とする方が拡散に役立つとの視点から、オンライン開催がよいと考えている、との意見が付された。

4. 第28回学術集会（2022年）準備状況報告

田中屋会長から、次の報告があり、承認された。

会期：2022年6月17日、18日

会場：岡山コンベンションセンター（岡山市）

従来の会場開催型を考えているが、ハイブリッドでの開催もその長所/短所を勘案し、慎重に検討していきたい。

5. 第29回学術集会（2023年）会長選出

理事会として、第29回学術集会（2023年）会長に杉本健樹理事を評議員会に推薦することとした。

6. 理事推薦評議員について

総務委員長・平田理事から、会員数の増加に伴う評議員の増員について説明（定款細則第3章第5条、第6条）があり、理事推薦評議員候補者39名（事前提出31名および各種委員会委員で評議員でない委員8名）を選出した。今後、候補者に就任依頼状を送付し、承諾の場合には返送された履歴書（ならびに未入会の場合は入会申込書）を総務委員会で確認した上、通信理事会で最終承認することが承認された。

7. 各種委員会報告・審議

①総務委員会

1) 日本医学会加盟申請について

(1) 平田担当理事から、本年は会員数の増加以外昨年と状況が変わらないため、申請を見送ったことが報告された。今後の課題として、学会の独自性・会員構成・国際化・評議員の選出基準・委員会規約等の規定の整備などが挙げられることが意見交換された。

(2) 理事長から、毎年申請するのではなく、これらを整備しタイミングを見て申請することとしたい、と発言があり、その方針が承認された。

2) 委員会内規作成状況について（今後の各委員会の内規（規約）作成について）

(1) 平田担当理事から、委員会内規作成について、次のとおり報告された。

定款細則第22条には「内規」との規定があるが、ホームページに公開するのならば、内規ではなく規約が望ましいとの見解が理事長から出され、特に異論はなかった。今後検討を続けることとなった。

提出依頼中の作成案について、総務委員会で書式、文言、条の整合性、定款および定款施行細則との齟齬がないか等を確認の上で修正し、理事会に諮りたい。

専門医制度小委員会、HTC/FTC小委員会については、それぞれの制度規則の中に小委員会の内規に相当する条項があるが、独立させるかどうか検討を要する。

業務内容は総論を記載し、具体的な業務は引き継ぎ事項などとして継承していく。

(2) 理事長から、上記方針にて会則委員会にも関わっていただいて案を作成し、司法書士の確認を経て理事会に諮るとの方針が示され、承認された。

②財務委員会

青木担当理事から、次のとおり報告、依頼され、承認された。

来年度予算編成につき、今年度実績等資料を送付、12月ごろをめどに各委員会から予算申請いただくよう依頼された。また今年度補正予算があれば、それもあわせて申請いただくことの依頼があった。

収支は、会員数増から会費収入は伸びているが、新型コロナウイルス感染症の影響によるキャンセル料支出、セミナーの中止による収入減がある。慎重に推移を検討し、補正予算案など対応したい。

来年度からの会費値上げについて会員に周知しなければならないと考えており、ホームページ掲載のタイピング等、広報委員会と共同し進めていきたい。

③ 会則委員会（鈴木理事）

1) 鈴木担当理事から、定款および定款施行細則の改訂・修正について、次の2点が諮られ、いずれも承認された。

(1) 定款細則第17条の委員会名を次のように修正する。

専門医・FCC 制度委員会→専門医・HTC/FTC 制度委員会

家族性腫瘍セミナー委員会→遺伝性腫瘍セミナー委員会

(2) 定款第25条第2項について

評議員会の議事録署名に関して、議長及び出席した理事全員の記名押印が必要としてあったが、これを簡略化するため、定款第25条第2項を次のように改訂することを来年度の評議員会で発議する。

議長及び議事録を作成した理事は、前項の議事録に署名又は記名押印する。

④ 編集委員会

1) 下平担当理事から次のとおり報告され、承認された。

(1) 学会誌発刊について

20巻1号、2号を発行した。1号に初めてバリエントレポートを掲載した。2号はガイドライン特集号とした。

(2) 査読の進捗状況および次号掲載論文について

(3) 投稿勧誘に関して

21巻特集は、第26回学術集会シンポジウム1「チームで支える」で企画する。

第26回学術集会発表全ポスター・一般演題に投稿を勧誘する。

第25回学術集会発表演題で、投稿に応じるとの回答があったが未投稿の先生には再依頼する。

2) 理事長から、全演題に投稿勧誘することで投稿数も増えるので、採用する投稿論文の質の評価・採択率についても編集委員会で検討することとした。

3) 委員の追加に関して

下平担当理事から、査読業務繁忙のため委員を増員したい旨諮られ、檜井孝夫先生（評議員、広島大学病院遺伝診療部）を編集委員会委員に委嘱することが承認された。

⑤ 学術・教育委員会

報告事項なし

⑥ 専門医・HTC/FTC 制度委員会

● 専門医制度小委員会

1) 専門医制度小委員会委員長・田中屋担当理事から次のとおり報告され、承認された。

2020年12月19日に予定されていた専門医試験は延期とし、会場はキャンセルした。また、延期告知前に納入された受験料は手数料も含め返金した。

遺伝性腫瘍研修施設は17施設増加した。

臨床遺伝専門医制度委員会相互乗り入れの委員の役割について、次のとおり合意した。

会議には出席する

試験問題修正については用語の修正のみとする

面接、合否判定には関与しない

2) 専門医制度規則の改訂について

同・田中屋担当理事から、専門医制度規則第20条第2項、3項にある「詳細については別途定める」との文言を、別に定めてある事項はないため削除することが諮られ、承認された。

3) 臨床遺伝専門医制度との相互乗り入れについて

同・田中屋担当理事から、「遺伝性腫瘍専門医から臨床遺伝専門医へのキャリアパス」は承認されており、今後「臨床遺伝専門医から遺伝性腫瘍専門医へのキャリアパス」の制度化を検討することについて諮られ、承認された。

● HTC/FTC 小委員会

HTC/FTC 小委員会委員長・川崎理事から、第26回学術集会時に開催したパネルディスカッションについて、HTC/FTC 資格取得者を演者とし、205名に受講証を発行したこと、アンケート結果をまとめたことが報告された。

● 2020年度専門医・HTC 認定試験実施について

1) 今年度延期している両試験について、それぞれの小委員会委員長から次のとおり報告された。

(1) 専門医制度小委員会

試験実施に関して意見を徴したところ、オンサイトで実施することは推奨されず、試験中止と延期してオンライン試験を実施とに意見が分かれた。

オンラインで実施する場合は、カンニングの問題があるため自宅受験は不可、分散 CBT 方式がよいとの結論を得た。

CBT 方式費用について 2 社から見積をとり検討した。試算すると、CBT 方式を取り入れても、専門医・HTC の申請料、認定料収入でおおよそ賄えるのではないかと考える。

面接は Zoom を利用して行う。

(2) HTC/FTC 小委員会

専門医制度小委員会と同様、CBT 方式での試験実施が推奨された。

実施時期は、CBT 方式への対応を考えると、来年 4 月～6 月で実施、との意見が多かった。

HTC/FTC 単独での実施は難しいので、専門医と合同ならばコスト的にも可能である。

今年度はオンラインとするが、次年度以降については今後検討する。

2) 両小委員会の意見を踏まえて、田中屋担当理事から、試験の実施について諮られ、次のとおり決定した。

(1) 今年度中に専門医と HTC/FTC 合同で実施する。

(2) 実施方法

CBT 方式を採用し、面接は Zoom とする。

CBT 委託先は、システムがしっかりしている株式会社シー・ビー・ティ・ソリューションズとし、具体的な新型コロナ感染症対策に関して同社に確認し、専門医制度小委員会で詳細を詰めていく。

(3) 実施の時期

2021 年 3 月を予定

⑦ 遺伝性腫瘍セミナー委員会

吉田担当理事から次のとおりの報告された。

第 22 回後期遺伝性腫瘍セミナー

10 月 1 日～31 日、e-learning 方式で開催中。受講者数 338 名。

第 23 回遺伝性腫瘍セミナー準備状況

e-learning 方式を予定、遺伝カウンセリングの部分は webinar、人数限定（90 名程度）で Zoom を用いたロールプレイを実施予定。

第 2 回遺伝性腫瘍アドバンストセミナー

検討中で具体化はまだ進んでいない。今年度中の開催は難しいと考えている。単位取得の方針を明確にすることが課題である。

⑧ 将来検討委員会

報告事項なし

⑨ ガイドライン委員会

大住担当理事から、内規案中の業務内容（他団体が作成した遺伝性腫瘍に関するガイドライン・指針等の評価は本委員会では行わない、等）が確認され、条文記載方法等について意見交換が行われた。

⑩ 倫理審査委員会

杉本担当理事から、学術集会演題応募に関する倫理指針とチェックリストの作成作業繁多のため委員を増員したい旨諮られ、以下の先生方に委員を委嘱することが承認された。

泉谷 知明 高知大学医学部 産婦人科（医師）

井本 逸勢 愛知県がんセンター中央病院リスク評価センター（医師、研究者）

大竹 徹 福島県立医科大学 医学部 乳腺外科学講座（医師）

金子 景香 がん研有明病院 臨床遺伝診療部（遺伝カウンセラー）

松本 恵 長崎大学病院 腫瘍外科（医師）

村上 好恵 東邦大学 看護学部（看護師）

なお、指針・リスト作成に係る人員と倫理審査に係る人員とは別であると考えられるため、委員会内規作成にあたっては、その点留意したいとの発言があった。

⑪ 利益相反委員会

報告事項なし

⑫ 広報委員会

1) 川崎担当理事から、年 2 回のニュースレター配信を計画していることが報告され、承認された。

2) 著作物転載に関する規定について

川崎担当理事から、著作物転載に関する規定案が提出された。前回理事会に提出された案に、どのような雑誌等印刷物を対象とするかの一文を追加し、協議の結果、原案が承認された。なお、文言について以下のとおり修正する。

4. の① ……書籍等への転載は……
4. の② 啓蒙→啓発

3) ホームページ改修について

川崎担当理事から、ホームページ改修案が提示された。協議の結果、今回は全体の体裁のみ決定し、詳細は引き続き広報委員会で検討し、理事会の承認を得ていくとなった。なお、ポータル画面は窓口を設け、「医療者向け」「一般向け」を置き、「会員向け」は My Page の構築にまだ時間がかかるため、継続審議となった。

⑬国際委員会

報告事項なし

⑭遺伝カウンセリング委員会

報告事項なし

⑮がんゲノム・データベース (GDB) 委員会 (赤木理事)

報告事項なし

⑯作業部会委員会

石川担当理事から、新規に Cowden 症候群などいくつか部会設置希望を聞いているので、今後取りまとめて理事会に提出したいと報告された。

⑰遺伝性腫瘍研究グループ連絡協議会

報告事項なし

8. その他

①事務局業務委託に関して

1) 理事長から、事務局業務委託について、現在の委託先の有限会社トータルマップから株式会社へるす出版に変更することが提案され、次の説明があった。

昨今のがんゲノム医療の進歩・普及により、本学会も学会員の急増、専門医制度や選挙制度の導入などにより事業が増加し、事務局の業務も増加してきた。

将来検討委員会で数年来、増加した業務に対応するために事務局委託先や委託内容について検討した時期があったが、学会名称変更の時期と重なり、そのままとなっていた。

株式会社へるす出版は、消化器外科系あるいは救急医学系の雑誌等の出版のほか、20 を超える学会、研究会の事務局を手がけている。今回見積もりを提出してもらった。

2) 協議の結果、事務局委託先を株式会社へるす出版に変更することが承認された。

3) 変更にあたって、以下のことが確認された。

定款第 2 条に定められた「主たる事務所」の記載変更は定款変更が必要なため、来年の第 27 回学術集会まで現状のままとし、第 27 回学術集会時開催の評議員会において定款変更する。

業務引き継ぎは年内に完了する。

編集事務局は 11 月から移行し、窓口もへるす出版とする。

次号 (20 巻 3 号) から株式会社へるす出版において制作、出版する。査読については、同社査読システムがあるため、本学会査読システムと整合性をとる。

財務関係では、必要に応じて補正予算を立案する。

ホームページの移行、セミナー関連書籍の刊行など、各種委員会でも関係するところが出てくると思われるので、各委員長に協力をお願いする。

②未来医療推進機構からの依頼について

理事長から、一般財団法人未来医療推進機構から本学会との連携依頼があったことが報告された。同機構から送付された連携に関する協定書案や同機構ホームページなどからは、同機構組織や連携内容の詳細がつかめないため、同機構に具体的に組織や連携内容をお知らせいただくよう依頼したが、まだ回答が得られていない。今後、理事長、副理事長、総務委員長が同機構の理事長または事務局長など責任ある方とお会いし、説明いただいた結果をもって、連携について理事会に諮りたいと発言があり、その方針が承認された。

③第 12 回遺伝カウンセラーのための実践集中講座後援依頼

大住理事から、第12回遺伝カウンセラーのための実践集中講座（会期：2021年2月22日～28日）への後援依頼があり、従来通り第12回についても後援することが承認された。

④ 本学会ロゴマークについて

理事長から、本学会ロゴマークは研究会時代に作成され、継続的に使用しているものであるが、著作権について特に取り決めがなく今日に至っているので、著作権は本学会に帰属することを取り決めたい旨提案され、承認された。

⑤ 寺本司法書士との顧問契約について

理事長から、寺本司法書士には本学会諸規則の改訂などでお世話になっているところ、現在まで無報酬であり、本年4月からの実費をお支払いすることと、今後の顧問契約を締結することにつき諮られた。過去実費および契約書案が示され、協議の結果、過去実費をお支払いすること、原案どおり契約を締結することを承認した。

なお、奥村会計士との顧問契約についても自動更新の時期などを確認して継続することとした。

9. 次回定例理事会日程について

2021/3/5（金）15:00～

2021/3/6（土）13:00～

2021/3/12（金）15:00～

2021/3/13（土）13:00～

の日程で調整することとした（web開催予定）。

以上をもって議事の全部を終了し、議長は16時40分閉会を宣した。

以上